西山別院のご門徒さんに、平野暉雄さん（68）という面白い方がいらっしゃいます。何が面白いかというと、この方は橋が大好きで、年がら年中、日本や中国を走り回って橋の写真ばかり撮っていらっしゃいます。

でも、オタクというわけではありません。橋専門のプロの写真家として写真集も出していらっしゃいますし、橋を中心とした環境設計の会社も経営する実業家です。すごい方です。

この間、大阪で写真展を開かれましたので、行ってまいりました。中国と日本の橋の写真展です。たまたま、会場が空いていたので、平野さんご自身が一枚一枚、丁寧に説明して下さいました。

「この橋の上にかかっている虹は、撮影しようと思ったらたまたま掛ったんだ。」とか、こんな半円の橋の頂点に祭の御神輿が丁度通り掛っている写真なんかは、「朝5時に起きて場所取りして夕方まで粘って撮影したんだ。」とか。色々エピソードを語ってくれたり、また橋の歴史についても深い見識をお持ちなので、興味深いお話が色々窺えました。

しかしながら、平野さんのお話を聞いていると、不思議と橋に興味が出てきます。今まで橋になんか見向きもしなかったんですが、平野さんから写真集を頂いたり、お話をうかがった後は、橋の掛りっぷりといいますか、風景として橋を眺めるようになりました。

感化されたというんでしょうか。平野さんの橋に対する思いが自然と僕の心に風邪のウイルスのように、うつってしまったという感じです。

私たち僧侶は伝道の心得として「自信教人信」という善道大師のおことばを聞かされます。自ら信じて人を教えて信ぜしむる。

理屈ではなく、み教えは心から心へ伝わるということですね。平野さんはお坊さんではありませんが、橋に対する思いは本物です。そういった心が自然と僕の心に伝わって橋に興味を抱かせたのではなかろうかと思います。そのようなお姿から、私も僧侶の末席として、先ずは自分が、仏法を喜ぶ身にさせて貰わねばならないなと感じました。

もう一つ見習わなければならないことがあります。

16年前の阪神淡路大震災が1月17日に起こりました。高速道路の高架が倒れているテレビの映像を見て平野さんは、その2日後、自転車で倒れた橋脚の写真を撮りまくったそうです。1週間で8000枚以上、それを後日道路公団に提供しました。それが復旧工事の時に大変役立ち、スムーズに工事が進んだということで、表彰を受けたそうです。

こういう、瞬発力といいますか、行動力も、橋に対する本物の思いがあるからこそでしょう。自然と行動に結びつくんですね。

因みに、このたびの東日本大震災でも、当時写した写真を貸してほしいと道路公団からオファーがあったそうです。社会貢献されてるなあと敬服いたします。

平野さんは、四季折々の自然と街並みと調和した橋を、日本の文化と共に、仕事を通じて後世に伝えて行きたいと常々仰っていらっしゃいます。いわば「橋の伝道者」です。立ち場は違いますが仏法を伝える僧侶の身として、そのご姿勢を見習わなければなりません。